

(編入学)

平成25年度 入学試験問題

小論文

(農学生命科学部 生物資源学科)

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いて見てはならない。
2. 印刷の不鮮明な箇所等がある場合には、申し出ること。
3. 解答用紙3枚と下書き用紙3枚を別に配付してあるので確認すること。
4. 問題1(a)、問題1(b)および問題2の解答はそれぞれ指定の解答用紙に記入すること。 解答用紙以外に記入したものは無効である。
5. 解答用紙の一つのます目に一文字ずつ入れること。
6. 解答用紙の指定された欄に、学部名及び受験番号を記入すること。
7. 配付された解答用紙は、持ち帰らないこと。
8. 配付された問題冊子及び下書き用紙は、持ち帰ること。

問題1 以下の図をみて次の間に答えよ。なお、(a)ならびに(b)の解答はそれぞれ解答用紙1(a)ならびに解答用紙1(b)に記入しなさい。

(a) 1961年から2007年までの単位面積あたりのコメ収穫量のデータをみると日本の収穫量はほぼ一定となっているものの、極端に落ち込む年がある。この原因として考えられる理由とそれを回避するための方策について句読点を入れて200字以内で述べよ。

(b) 東南アジア諸国では徐々に日本の収穫量に近づいてきた。その理由について考えられることを句読点を入れて200字以内で述べよ。なおLao PDRはラオスのことを示す。

著作権の関係上、省略します。

図. アジア各国における1ヘクタール (ha) あたりのコメ収量 (t) .
FAO統計資料より作成 (<http://faostat.fao.org/>)

問題2 1958年、1967年、および2006年の作付面積順のイネ品種を示した以下の表をみて次の間に答えよ。コシヒカリが1967年から上位を占め続けている。今後、気象変動など栽培環境の変化が予想される中、高品質のコメを確保するために必要なことを解答用紙2に句読点を入れて400字以内で述べよ。

著作権の関係上、省略します。

農水省統計情報より作成 (<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>)